

JIS 標準色票について

1. はじめに

浅葱色、丁子色、なでしこ色などは日本の伝統色の名前です。植物などを引用してどのような色かを伝えようとしていますが、色を正確に伝えるのは非常に難しいことです。

また、綺麗な鉱物の色を、周囲の色の影響を排除して絵具などで再現できるでしょうか。

人間の目は周囲の色や明るさ、色の面積などに容易に影響を受けてしまいます。そこで、色が持つ性質に段階を加えることで記号化し、正確に伝えられるよう考えられたのが表色系です。

2. 様々な表色系

身近な表色系としてはパソコンのモニターでおなじみの RGB や、印刷で使われる CMYK などがありますが、一般には色の三属性を利用した表色系が用いられます。

色の三属性とは色相・明度・彩度として知られるもので、色相は、赤や青、黄といった色の違い、明度は色の明るさ、彩度は色の鮮やかさを意味します。

この色の三属性を利用した表色系として最も有名なものがマンセル表色系です。

3. マンセル表色系

マンセル表色系はアメリカの画家・美術教育者のアルバート・マンセル (1858-1918) によって作り出された表色系で、基本となる 5 つの色相 (R・Y・G・B・P) に、それぞれの中間の色

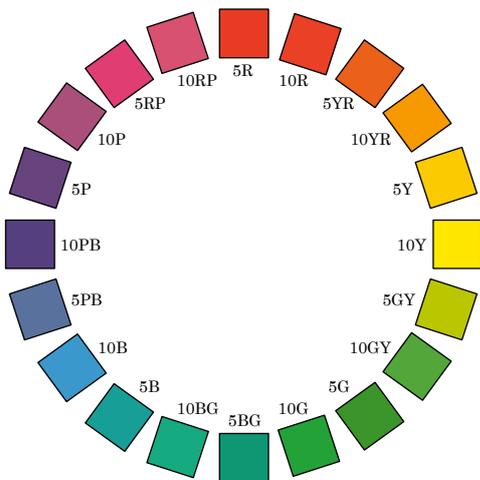


図1 マンセル表色系の色相環 (20色)

相 (YR・GY・BG・PB・RP) を加えることで、大まかに 10 色の色相を決め、さらに各色の間を 10 分割することにより、計 100 色の色相を設定しました。(図1)

それぞれの色相について、明度・彩度を平面的に表したものを等色相面と呼びます。図2は 5P の等色相面です。図中の○に位置する色は 5P 6/16 と表します。

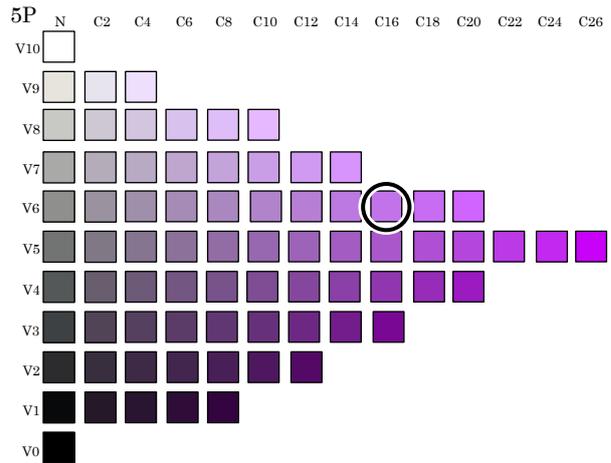


図2 5P の等色相面

4. JIS 標準色票

このマンセル表色系は、日本では JIS Z 8721 (三属性による色の表示方法) の規格として採用されており、JIS 標準色票 (図3) で実際のカラーチップを見ることができます。



図3 JIS 標準色票

産業技術センター瀬戸窯業試験場では、釉薬テストピースをデジタルデータ化する際に、測色計で得られた値と、実際の色彩の確認のために使用しています。

貸し出しはしていませんが、ご興味のある方は当試験場までご連絡ください。



産業技術センター瀬戸窯業試験場 製品開発室 朝野陽子 (0561-21-2116)
 研究テーマ： 釉薬テストピース及び釉薬データベースの活用
 担当分野： 陶磁器デザイン・釉薬研究